

それぞれの集大成！

The compilation of each five doctors!

— 研究室への置き手紙 —

— Message for the Lab. members —

2月15日(金)・18日(月)に行われた博士論文審査会では都市デザイン研究室の博士課程5名(ポンサン・楊・松井・ナッタポン・中島)が審査に臨みました。研究室マガジンでは、5名の皆さんから頂いた研究室への置き手紙を2号に渡って掲載します。今号は中島さん・ポンサンさん・ナッタポンさんの3名です！

博士論文審査会

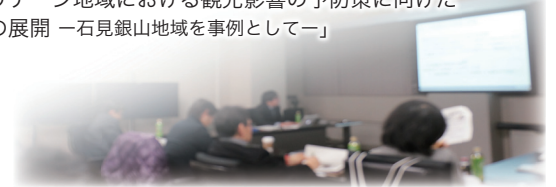
ウィチエンブラデイト ポンサン / Pornsan Vichienpradit
「タイ・バンコクの仏教寺院と周辺地域の保全課題に関する研究
— 現代的都市計画における宗教施設のあり方をめぐって —」

楊 惠亘 / Yang Hui-Hsuan
「台北市における文化・芸術を主軸にした都市空間施策による
都市再生に関する研究」

中島 伸 / Shin Nakajima
「戦災復興土地区画整理事業による街区設計と空間形成の実態に
関する研究 — 東京都戦災復興土地区画整理事業地区を事例として —」

松井 大輔 / Daisuke Matsui
「歴史保全型まちづくりに対する行政関与に関する研究
— 住民・市民関与との相互関係の変化に着目して —」

パンノイ ナッタポン / Nattapong Punnoi
「リビング・ヘリテージ地域における観光影響の予防策に向けた
関係主体協働の展開 — 石見銀山地域を事例として —」



研究室への置き手紙 Vol.1



中島 伸 /
Shin Nakajima



ウィチエンブラデイト
ポンサン /
Pornsan
Vichienpradit



パンノイ
ナッタポン /
Nattapong
Punnoi

「戦災復興土地区画整理事業による街区設計と空間形成の実態に関する研究 — 東京都戦災復興土地区画整理事業地区を事例として —」という題目で博士論文をまとめた。ここまで多分に時間がかかったが、その分感慨も大きい。審査会をどうやって迎えられるだろうかと、積年思い巡らせてきた。

そんな審査会が終わった今では、もう二度とすることができないのかと、心に穴が空いたような感じもしている。自分の考えてきたこと、研究したことをそうそうたる先生方と議論させていただき、とても幸せな時間だった。

今後さらに研究を進める上での指針も見えてきて、やるべきことも見えてきた。2009年の春に北沢先生に、「博士論文をどうするかじゃない、博士論文を出した後に何をすることが重要だ」と言っていたことを思い出した。

審査会が集中する2月15日の中では、最初の発表となりました。人の審査会を気にすることなく挑むことができる利点はありましたが、緊張感はさほど変わらなかったと思います。限られた発表時間内に3年間取り組んできた研究の成果を如何に伝えるかという困難さを実感しました。審査員の先生方に指摘された通り、至らないところも多々あったものの、その時の自分もっていた力を出しきったと感じています。

博士課程の3年間はあっという間に過ぎました。自分の研究以外に、網走市の全国大学生旅プランコンペに参加し、長年継続している鞆プロジェクトに一時復帰し、鹿児島プロジェクトにも2年間関わりました。この際、「学生だからできること」を再確認できたような気がします。この研究室の在籍期間は短いものなので、やりたいことを計画的に取り組むべきだと考えます。

来日した15歳の頃から、私は博士号を取る夢を持っていました。この夢は、私から父への一方的な約束であり、子供の時から憧れでした。修士の際は、意義のある研究をしたいと意気込んで空回りし、落ち込み、博士号をあきらめようと何度も思いました。しかし博士課程では多くの人々に精神的にも技術的にも金銭的にも支えられ応援され、お陰さまでやっとこの春に博士課程を修了することになりました。

私の博士号は私だけのものではありません。応援してくれた友人たち、一緒に切磋琢磨した研究室の仲間たち、温かく迎え入れてくれた石見銀山の人々、父・母・妹、いつも真正面から議論につき合い道標を示してくれた窪田先生、いくつものチャンスを与え私の研究に理解を示してくださった西村先生。この場を借りて、皆さんに感謝したい。本当にありがとうございました。

"まち大コーナー第4弾!"

A Message from MPS student vol.4!

【建築から都市へ】



▲東横線廃線跡地（桜木町駅付近）＝高架上の線形空間

僕は小さな時から何かものをつくりたいと思っていたので、大学は東京芸術大学(建築)に行きました。行ってみると東京芸大は当時の僕には自由過ぎてそれがちょっと重荷なくらいでした。

だからという訳でもないでしょうが、大学卒業後は安藤忠雄さん・山本理顕さんという、厳しいことで知られる2人の建築家の下で建築の設計に携わりながら、ものをつくることの楽しさだけでなく、社会の中で建築が実際に立ち上がることを考え始めます。2人の師に影響を受けながら、徐々に建築そのものからその社会性の方へと興味が変化していったわけです。

しかもちょうどその時期に横浜市都市デザイン専門職の公募に受かり、実際に都市と関わる機会を得ることが出来ました。

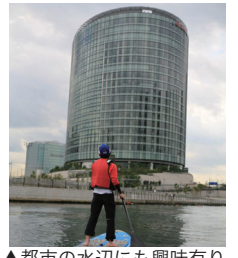
まちづくり大学院で学ぶ方々からお話を伺う連載企画。第4弾は、横浜市都市整備局都市デザイン室に勤務する桂さんが登場です。

まちづくり大学院 4期 M2 桂 有生

横浜市都市整備局都市デザイン室では、デザインによる相対的役割を担っており、公共空間の企画から張紙の色にまで、色々とかちばしを突っ込んでいます。

そんな実務の中で感じた、建築と都市の思考のギャップを埋めようとまちづくり大学院に来ましたが、研究では東横線廃線跡地やそれに類似する都市の線形空間の在り方を考えたいと思っています。

そもそも研究というものに取り組むのが初めてで、いまだに戸惑っていますが、自分が楽しめるまでパブリックな空間について考えてみたいと思います。



▲都市の水辺にも興味有り

プロジェクト報告

Shimizu-project
清水プロジェクトin トウキョウ
建築コレクション

プロジェクト展で清水PJパネルが展示されました!

空間計画研究室 M2 遠藤 友里恵

2月26日(火)から3月3日(日)まで開催された「トウキョウ建築コレクション」は、日本で初めて全国規模の修士設計論文展として2007年より行われている展示会です。今回は、トウキョウ建築コレクション2013のプロジェクト展にて清水プロジェクトの2年間の軌跡を展示してもらいました。実は応募締め切りの2日前に、展示しませんかとお声がけ頂き、M1を中心としたメンバーで急遽パネルを作成し、展示に漕ぎ着けることができました。私たちにとっては、昨年度に行った調査から今年度行った社会実験まで、改めてまとめ直す良い機会となりました。

展示終了後、同タイトルの書籍が発売される予定ですので、機会があればみなさんお手に取って読んでみてください。研究室の活動を、全国の方に宣伝することの出来る良い機会だと思いますので、これからも継続的に出展していけるといいなと思いました。



▲M2大森、清水パネルの前で1枚



▲会場となった代官山ヒルサイドテラス

留学生が見た被災地の今

Visiting Tohoku Devastated Area

D2 オスマンさんによる3日間の東北訪問記です!

D2 OTHMAN SUMAIYAH

On Monday, 4th March 2013, Department of Engineering organized a 3 days technical visit to the devastated area in Tohoku. By 3pm we reached our destination; Otsuchi Cho and got briefing by the officer; from a NGO called Hiroba. The organization's main purpose was to focus on community building especially on participation of younger generation after the disaster. We can still see few free standing buildings such as the town hall and few other buildings that waiting to put down for the future development. On the second day, lunch was served in local community café called Riku Café. This is where we learned the spirit of "kino kaori" or good smell. The visit get more interesting when we visit the biggest affected area; Rikuzen Takata City. We were amazed by how Japan determine and managed their wastes for this case the debris from the tsunami seriously. I still can recall the advice from the NGO officer " appreciate what you have now because you may no longer have it tomorrow".



▲Otsuchi Cho at sunset (大槌町の夕日)



▲Infront of Konjikidō (金色堂の前で)

* 編集後記

松本 綾

初めて編集ソフトのインデザインを使った日から2年が経ち、ついに最後のマガジン発行になりました。個人的にはAPSA特集号や年末特大号、研究室旅行特大号など、なぜか節目の号の編集担当になることが多く、思い返せば毎回ドタバタの発行作業の繰り返しでした。原稿の校正や紙面のレイアウト等々、ようやくスムーズに行えるようになったと思ったらもう卒業…少しさみしい気もしますが、これからは一読者として月に2回のマガジンを楽しみたいと思います◎

3月の予定

3月14日	佐原PJ現地報告
3月15~17日	清水PJ大分県現地調査
3月21~23日	鞆PJ現地調査
3月25日	修了式・追いコン

information